

令和5年度 自己評価書

令和6年3月15日
真庭市立八束こども園
園長 金崎 知子 印

1. 八束こども園の教育保育目標

- のびのびと心豊かに意欲をもって生活する子どもの育成
 - ・ 保育の専門性と豊かな感性を生かした安心できる環境のもと、意欲を持って生活し、遊び込むことができる子どもの心を育む。
 - ・ 遊びを通して、粘り強く頑張ることのできる力、友達と折り合いをつける力、気持ちを切り替えるコントロール力を育み、生きる力の基礎を育てる。

2. 本年度の重点目標

- 非認知能力の基礎となる愛着関係を意識してかかわり、子どもが自ら気づき、考え、主体的に取り組むことができる環境づくりを考える。
- 小学校との連携を密にし、普段から交流をもつ中で相互理解を深め、子どもの円滑な接続を行う。
- 食育を通じて豊かな食の体験を積み重ねていくことにより、楽しく食べる子どもを育てる。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	各年齢に合わせ、園の保育目標や重点目標に沿った計画の立案や振り返りができていた。	3
行事	回数や内容などコロナ禍で見直せた点も大切にし、無理のない形で通常に戻すようにした。	3
組織・運営	職員相互が立場を理解し、協力助言しながら園運営に携わっている。	3
学級経営	子ども一人一人を大切にし、気持ちを受け入れながら丁寧な関わりを意識した。	3
特別支援教育	家庭や関係機関との連携を図り、個々の子どもに応じた指導計画のもと、保育を行っている。	3
安全管理・保健指導	ハード面での課題（塀の低さ等）は残るが、外部に防犯訓練を依頼し、振り返りの園内研を行うなど、職員の危機管理意識は高まっている。	3
研修（資質向上）	参加できる研修には積極的に参加し、資質の向上に努めた。	3
情報提供・保護者・地域との連携	コドモンの導入と活用により、園の様子が以前より保護者に発信しやすくなった。	3
小学校との接続・連携	年長児と一年生が年間を通じて継続的に交流できたこと、職員の行き来もあったことで、相互理解が深まった。	3
子育て支援	必要に応じて話し合いの場をもつなど、子育ての不安が少しでも軽減するよう配慮した。	3
食育の推進（給食）	野菜作りやクッキングなどの食育を通して、子どもが食べることを楽しめるよう工夫している。	3
食事の提供（調理）	大量調理マニュアルに沿って適切に調理すると共に、年齢や個々に合わせた配慮をしている	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
その他1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりが少しずつ復活してはいるが、機会としてはまだ少なく、引き続きの課題である。 	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

○重点目標について

- まずは受容からという職員間の共通認識のもと、愛着関係を意識して関わりながら、一人一人を大切にしたい保育を心がけた。主体的に遊び込める環境づくりという点で振り返ると、異年齢での遊びのコーナーなどがもっと充実できれば良かったという反省点も残る。
 - 年長児と一年生とが年間を通じて交流する機会をもてたことは、相互理解を深めるのにとっても有意義だったと思う。例えば一緒にさつまいもの苗植えをし、収穫してクッキングをするなど、継続した取組みを一緒にすることで一体感も生まれ、就学への期待にもつながっていた。
 - 乳幼児期にふさわしい食生活を考えた献立、日々の衛生管理の徹底やアレルギー児への対応等が適切にできており、保育士とも連携を取りながら安心安全な給食の提供ができていた。
今後も楽しく食べる子どもの育成に向け、年齢や個人差を配慮しながら食育につながる活動を取り入れていきたい。
- その他・・・コロナ禍で減っていた地域の方々との関わりを少しずつ戻し、園からも発信しながら子ども達の育ちを共有していけるように考えていきたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- 一人一人の思いを大切に受け止める保育を引き続き基本とし、認められ安心して自己発揮できる人間関係の中で、生き生きと遊び込める活動内容や環境づくりを工夫していきたい。
熱中して遊ぶ経験を通して学びに向かう力を育む、異年齢児との幅広い年齢層の中で人と関わる力を育てるなど、ねらいを職員間で共有し、園全体で子どもの育ちを見ていく体制を強化したいと考える。
- 地域とのかかわりについては、小学校との交流や連携を継続しつつ、主任児童委員や地域のボランティアの方に園児と交流してもらえる機会を新たに企画するなど、つながる機会を増やしていきたい。